

協議会ニュース 95号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2004. 7



奥三河の四季

『ナツツバキ』 ツバキ科ナツツバキ属

ツバキ科ではあるが、落葉樹である。夏に5弁の白い花をつける。花弁の縁が縮れ鋸歯があり、1枚の花弁に斑が入る。1日花である。シャラノキなどと言われるが、本当のシャラノキは本種ではない。 2002.07.30 撮影
木の高さ：10～20mの落葉高木 花の直径：5～6cm Photo: 近藤 守

●特集 環境月間「ふるさと親子自然観察会」

尾張支部	レポート: 長尾 智P2
知多支部	レポート: 中井 三従美P3
名古屋支部	レポート: 森 光宏P4
東三河支部	レポート: 岡本 強P5
・会員のページ	P6
・観察会あれこれ	P7
・役員紹介	P8～9
・Web ページ紹介	P10
・事務局だより	P11
・編集部だより・行事予定 他	P12

尾張支部『野の花と昆虫』

報告／長尾 智

日時／場所：2004年5月9日(日)9:30～11:30（雨）／場所：森林公園植物園

参加者人数：一般 0名

指導員名：17名 石井 内海 大久保 大谷 刑部 鹿島 加藤(正) 加藤(良)
曾我部 長江 長尾(文) 丹羽 平松 森 山口 山田(博)
吉田(雅)

一般参加者が一人もみえなかつたので、会員だけでこの時期の植物園内の様子を観察し、次回へ役立てることにした。その後、印象に残つた物や改善するとよいと思われる点を書いてもらつた。

〈印象に残つた事物〉

- キンラン
- オオバウマノスズクサ(今が盛り)
- ナンジャモンジャ
- イヌザクラ
- ズミ(桜の花に似ていて今が盛り)
- ヒメジヤノメ・シロシタホタルガ
- ジャコウアゲハの蛹（さなぎ）
- アマガエルの鳴き声
- カエルの声を3種類聞けたかな。
- 木の種類も多く虫も沢山いるので、観察場所としては楽しめる。
- 雨ではあったが、緑が美しく静かでよい。
- 雨だったが、チョウチョが葉っぱにゆっくりととまっているのが見られてよかつた。
- 土壌生物の実物を見せてもらえたのは面白い、代表的な生物のイラストと名前が、パネルか何かで出ているとさらに良かった。
- 展示館の中の資料も大変充実しているので、多数の時は利用しても良いかと思う。

〈改善するとよいと思われる点〉

① 全体について

- 新聞の案内記事に「集合場所」を詳細に記載してもらうとよい。
- PRの方法を考える、一般参加者ゼロはさみしい。
- ネーミングを工夫して、一般も参加しやすいものにするとよい。
- ふるさと親子自然観察会から「親子」の文字を除いた方が参加しやすいと思う。
- チラシは、各入口、管理棟に分けて置くとよい。
- 下見の時に、親子用のプログラムも特別に考えるとよい。
- 生き物のつながりがわかる（生物多様性

の視点）観察会の工夫に悩んでいる、下見でテーマを見つけてお互いの知恵を出し合えないものか。

- 森林公園で自生と植えたものの違いを考えることは難しい？？
- たくさんの方々が参加していくよかったですと思う、いろいろ勉強になった。
- 指導員としてレベルを上げていく必要があると思っている。
- ゆっくり観察することができてよかったですと思うが、参加者がいなくて残念だったが、楽しくて気らうだった。

② 天候(雨天)に関連したこと

- 一般的の参加者はなかつたが、「雨天でもやります」とか「雨天中止」とかをはっきりさせておくと良い。
- 雨の日は中止とした方が良いと思う、メールでも良い。
- 雨の時にも魅力的な観察会ができるといいと思う。
- 雨でも参加したい観察会にしたい。1つでもしっかりと観察し、覚えて帰って頂き自然の素晴らしさ、大切さを感じられる観察会に。
- 雨天時の内容、場所の工夫ができないか。
- 雨でも参加できるサポートが必要ではないか。雨がっぽと雨ぐつで楽しい雨中散歩ができるようにしたい。何を目的に何を伝えるための観察会なのかを話しあえるといいのだが。
- 悪天候のせいで一般参力者がゼロというのは残念だったが、やはり広報活動が少なかったからか。
- 「親子」とうたつてしまうと、雨の中、子どもを連れ出そうとする親は少ないと思うが、これだけの指導員が協力しているのに余りにもつたないと思う、下見の時の天気が良かっただけに、本当に惜しかった。
- 雨天は中止と思ったかもしれない、雨の日も楽しめるようなキャッチフレーズがあるとよい、雨の日メニューの研修会も必要か。

知多支部「海岸の生き物をみよう」

報告／中井 三従美

日時／場所：2004年5月16日(日)9:30～12:00(曇りのち小雨)

／場所：常滑市鬼崎漁港(蒲池)

参加者人数：一般9名(大人4名・子ども5名)

指導員員：4名 山田(和) 森田 今津 中井(三)

〈進行内容〉

9時30分鬼崎漁港(蒲池)に集合。参加者は少ない。小雨が朝から降ったりやんだり。

挨拶をして、海に入る時の注意事項を伝え、観察場所へ移動。港のすぐ北へ。

潮の引きが悪い。これも天気の性？40分ほど自由に海に入つて、生き物探し、採ったものをバットに入れる。

カニを見つけ、ヤドガリを探り、貝を拾い、大きなワカメを拾い……。

皆の目がたくさんあると色々な物が集まる。

集めたものを山田和男指導員が説明をし、皆で触ってみる。中には気持ちが悪いと触れることをいやがる子どももいた。

〈観察できたもの〉

- ・アメフラシの卵→海そうめん
- ・ハスノハカシパン
- ・ミズクラゲ
- ・ヨロイイソギンチャク
- ・フジツボ(えびの仲間)
- ・ヤドカリ
- ・ダイダイイソカイメン
- ・マガキ
- ・イシダタミ
- ・あさり
- ・サルボウ
- ・ヨコエビ(浜の掃除屋さん→ベジタリアンなので海苔養殖の人から嫌われている。)
- ・フナムシ(浜の掃除屋さん→何でも食べる)
- ・ギンポ(潮だまりによくいるがこの浜は砂地なのでちょっと珍しい。)
- ・マゴチ

- ・ミミズハゼ
- ・アマモ
- ・オゴノリ
- ・アナアオサ
- ・貝殻…カガミガイ、ツメタガイ、タイラギ、アカニシ、

説明が終りに近くなつた頃、風が強くなり、雨も降り出して、子どもたちは服をぬらしていたので寒くなり、予定の時刻よりやや早く11時40分終了。

〈反省点〉

鬼崎漁港は榎戸と蒲池に港があり、今回、新聞に案内を載たが「字数」の関係で鬼崎漁港と載った。掲載に(蒲池)が無かつたため、榎戸(ヨットバー)の方に行く人がいるかも？…、会員の今津さんに榎戸の港に待機してもらった。今後、集合場所の表示にはどのように？と話し合う。

◎7月以降の川・海の観察会のご案内

- ・7/18(日)9:30 常滑市青海公民館P
「前山川にはどんな生き物がいるでしょう」 山田(0569-22-4660)・石田
- ・7/24(土)9:30 阿久比町板山公民館P
「福山川の生き物は今年も元気かな」 南川(0569-42-5382)・金内
- ・8/1(日)9:30 大府市神田公民館
「川の生き物を見つけよう」(申込先神田公民館) 深谷(0562-46-9140)・村瀬
- ・9/12(日)9:30 美浜町富具崎海岸
「潮だまりの生き物を観察」(午10:51) 森田(0569-87-0725)・鈴木純
以上、知多支部HPより抜き出しました。
他支部のみなさんも参加してみてはいかがですか？詳しくは知多支部のHPを参考に。

名古屋支部 『都市の自然 -樹木博士に挑戦-』

報告／森 光宏

日時／場所：2004年6月5日(土) 10:00～12:00 (晴) / 場所：鶴舞公園

参加者人数：一般 47名 (大人22名・子ども25名) : 17家族

指導員名：14名 浅井 石川 大沢 奥村 近藤 新宅 鈴木 滝田 萩原
布目 長谷川 水野 宮地 森

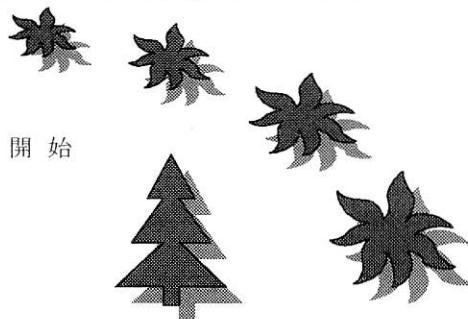
環境デー名古屋関連行事、ふるさと親子自然観察会2004
が6月5日、鶴舞公園で行われました。

天気も良く、少し暑い日になりましたが、参加者は熱心に指導員の話に聞き入り、メモを取ったり、観察会の用意した図鑑で確認をしたりしていました。

最後に、樹木博士に挑戦ということで、用意した問題15問を首をかしげリーダーの説明を聞きながら解答用紙に向かっていました。

〈進行内容〉

- 9:00～ 番号札取り付け
9:30～ スタッフミーティング・受付開始
10:00～ 開会式
10:20～ 自然観察会
12:00 終了



〈参加者の声〉

- 4才(男) 子供にはちょっと難しかったが、勉強になりました。
○8才(女) 木のいろんな種類があるのを知った。
○8才(男) 公園が探検できてよかったです。
○9才(男) 木は知っていても名前、その由来など知らないことが多く、とても面白かった。
クスノキ・・・名古屋の木、覚えたよ。
ツバキチャドクガ・・・気持ち悪いよ。
○6才(男) よく似ている葉でも名前が違ったり、枯れてから葉の姿の様子から名前がついている(クロガネ)や葉が出てくるときの様子から名前がついているものがあり、植物の一一番特徴のある時の印象で名前が着けてあるのでしょうか。
○36才(女) 樹木図鑑は分かりやすく、指導員さんの話と一緒に勉強になりました。木の話は、なかなか聞く機会がなく、この木はなんだ!と思っていたことが多いので、もっともっと知りたいと思います。
○37才(女) ヒイラギが大きくなると葉のギザギザがなくなること。葉っぱを触りながら、ゆっくり歩いて楽しめた。
○7才(女) いろいろあって楽しかったと思います。
○44才(女) 木の名前と実物が分かってよかったです。食べられる実も教えてもらい、自然に触れる機会になった。小冊子もこれから参考にしたい。

東三河支部『竹島の自然を丸ごと観察しよう』

報告／岡本 強

日時／場所：2004年6月6日(日)9:30～12:00（雨時々曇り）／場所：蒲郡市(竹島)

参加者人数：一般10名（大人10名）

指導員名：12名 天野 稲垣 岩崎 岡本(強) 梶野 柴田 鈴木(千) 寺本
中居 星野(芳) 星野(京) 間瀬

〈進行内容〉

当日は前夜からの雨で朝は最悪の天候でしたが会員は現地へ8時30分に集合し参加者の受付準備をする。幸いにも集合場所の東屋を確保でき、幟を立て受付場所としました。9時頃から参加者も集まり登録をすませ、いよいよ観察会の始まりです。

会長の挨拶から始まり、前日の世界環境デー、環境月間等を参加者に知らせ、今回は特に観察会とともにゴミ拾いをお願いする。

先ず初めに、海岸からの遠望として東から360度三河湾、北の山々の地形を説明する予定でしたが、雨天展望悪し、見える範囲で説明する。雨の中、387メートルの竹島橋をわたり、竹島の観察へと向かいました。中程で三河湾の潮流と赤潮の関係を説明する。また、島全体を覆っている照葉樹林の様子を遠望する。竹島全体が八百富神社の神域で島の森はタブノキ群落（タブノキとモチノキを中心とした植物群落）で天然記念物に指定されています。下草にはキノクニスゲが見られます。また、海浜植物を説明し潮風などとの戦いの様子を観察する。



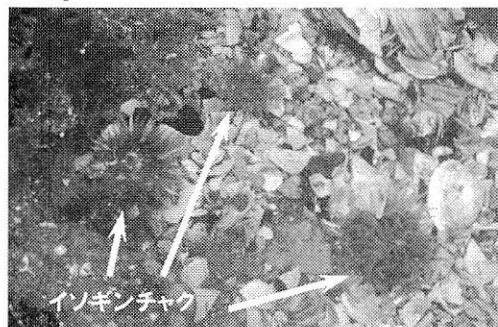
海岸に降りて島全体を形作る岩石を説明する。大部分はカコウセンリョク岩という花崗岩の仲間で出来ていますが、東西に30～50メートル幅で黒っぽい岩石のセンリョク岩が帶のように分布しています。

いよいよ磯遊びです。雨も止み潮周りも引き潮となりタイドプールができてきました。今回の参加者に創造大の学生さんが数人いましたので、磯遊びの感想をお聞きしました。

*カニがいてステキだった、もっと大きいのが見たい、イソギンチャクに指を入れたらすごかった、すごく吸い付いてきて楽しかった。

*タマシギゴカイの卵が良かったです、カニ、ヤドカリの動きとか、私は生き物中心に観察。

*イソギンチャクに遊んでもらい楽しかった、ゴカイの卵の様子がおもしろかったです。



少し時間がオーバー気味になりましたが楽しい磯遊びでした。帰りの橋の上からは、アマモ、ボラの稚魚を観察しました。ゴミ拾いも、吸い殻が目立ち、ペットボトル等で袋1杯になりました。以上が今回の観察会の様子です。

〈進行役割〉

受付 / 鈴木千夜子、寺本和子

開会挨拶 / 梶野保光（会長）

進行 / 岡本強

救護 / 柴田諭子

説明 / 間瀬美子：地形、地質

稲垣隆司：三河湾の潮流等

天野保幸：植物

岩崎員郎、星野芳彦：磯の生物

中居靖男：鳥類

その他、指導員全員で進行の補助を行う。

愛知万博と海上の森をめぐる日々

曾我部行子

1989年愛知万博の予定地とされていた瀬戸市南東部地区、やがて「海上の森」と呼ばれる一帯で体験した自然観察は、素晴らしく新鮮だった。感じさえすれば、誰もが自然理解の探求者になれる方法との出会いである。コナラやヤマザクラに彩られる春の淡色風景、オオルリの森に響くソロ、小さな湿地の鮮烈な水に生育する食虫植物、里の空を旋回するオオタカ、守るために何ができるのか。定例自然観察会の継続、県への公開質問状、署名運動、写真展の開催、ポストカードの作成、霞ヶ関への陳情、調査報告書の作成等など。主婦たちの無手勝流の非日常運動もどきは、本気の日常活動になって行った。

それでもやがて1997年6月モナコで開催されたBIE(国際博覧会事務局)総会でカナダを下し、万博が日本愛知で開催されることに決まった。それまでしっかりと自然に軸足を置いていた活動は、愛知県政に異議を唱える人々を巻きこみ、政治運動として増殖して行った。もう、それを止めることは不可能だったが、どうしたら、広範な人たちに海上の森の在りようを壊さない方がいい、と納得してもらえるのか。「海上の森は禿山だったし、人が復活させたものに過ぎない」「近辺にはもっと優れた自然がある」「海上の森は痩せていて里山ではない」。海上の森に愛情を持てない人たちの発言が逆に海上の森の価値とは何なのかを考えさせた。

そのような過程で「海上の森は痩せ地だ。でもそれがよりあった方がいいと思われるかどうか」。現地を歩き日本の自然との比較からなされた研究者の意見が耳に残った。クールさとホットさの思いの狭間から「2005年国際博覧会予定地『海上の森』の環境診断マップ」が生まれた。自然の知識だけに頼らない市民の目線を反映させる試みだった。

2000年1月、博覧会開催の事務局当事者であるBIEの「あなたたちは地雷の上に乗っている」発言が新聞紙上で発表されたことがきっかけとなって万博は大きな転回点を迎える。WWFジャパン、日本自然保護協会(IUCN)、日本野鳥の会(BLI)の環境団体としての国際的な発言力を軽視してきた日本政府および愛知県の失態だった。そこには世界の環境問題の深刻化という背景があつただろう。万博予定地として選んだ場所が広範な森林地帯であったこと、しかもその樹林を150箇都巿化して「環境」をテーマに新しい万博を行うことはいかにも無理があった。当初は薄かったテーマの環境性が、万博自ら「自然との共生」から「自然の叡智」へと濃くして行った。運動側が突きつけ続けた刃は、常にその矛盾に宛がわれていた。

2000年春から夏にかけ、万博は「万博検討会議」という立場を異にする28人の委員の議論によって海上会場面積を10分の1に減少させて生き延びた。万博開催の計画が、環境をどんどん都市化し、生物多様性が劣化していくことを認することにつながることだったのは不幸だった。しかし同時にその万博が海上の森を救ったのだ。愛知県単独の計画なら、このような展開は望めなかつただろう。

2004年現在「海上の森・県民参加の組織づくり準備会合」が愛知県によって開催されている。県と「海上の森の会(仮称)」という市民組織によって、海上の森を守っていこうとする試みがスタート地点によく立ったのだ。隔世の感がありである。ここからまた新しい苦しみと悩みと、喜びが紡がれるのだろう。

自ら自然理解への扉を開き、そこから無限の喜びを恵まれることになったものたちに課せられた責務があるに違いない。そんな一人として今後を見守りたい。

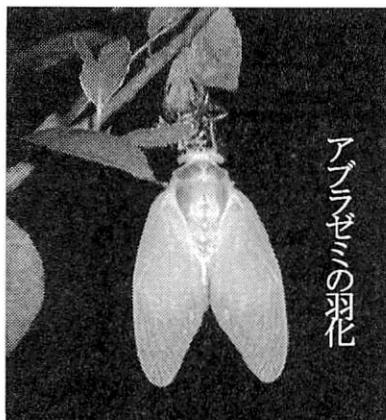


夜の自然観察

齋竹善行

夏になり、昼間は暑くてたまらなくても、夜になるといくぶん過ごしやすくなります（最近は、夜でも暑いことが多くなりましたが）。自然観察は、何も昼間に限ったことではなく、夜も雰囲気が変わっておつなもので。夜の観察というと、まずホタルの観察会が思い浮かびます。ホタルの観察会は人気があり、参加者も多く集まるのですが、見られる場所が限られ、どこでも開けるものではありませんし、観察できる期間もわずかです。

その点、セミの羽化は、ちょっとした公



園や社寺林でも見られ、身近な場所で行う夜の自然観察にはうってつけと思われます。アブラゼミの場合、シーズン中（7月から8月の中旬にかけて）、たくさん羽化が見られます。観察する場所としては、抜け殻がたくさんついている場所がいいでしょう。

セミの幼虫は、午後、6時頃から木の根もとの穴から這い出し、羽化する木などを目指して移動し始めます。暗くなってから探すのはたいへんですから、この段階から幼虫を見つけて、羽化する木をマークして

おくことが効率的です。

幼虫の背中が割れ、まだ色が淡く白っぽい成虫が出て来る様子は神秘的な感じがします。

しかし、羽化にはかなりの時間がかかり、成虫の羽が伸びるのは午後9時過ぎになってしまいます。その間、じっと羽化の様子を見ていてもいいのですが、せっかくの機会ですから、他にもいろいろと夜しか見られないものを観察してみてはいかがでしょうか。

天気がよければ、夏の星座が見られます。森があれば、樹液に集まるカブトムシやクワガタムシなどの甲虫が見られるかもしれません。電灯の近くで、光に集まって来るガなどの昆虫を調べることもできるでしょう。この季節ともなれば、鳴く虫の声を楽しむこともできるでしょう。

カラスウリのつるがあれば、白いレースのような花が咲いているはずです。明け方にはしぼんでいるので、夜のうちにぜひ見ておきたい花です。

このように、夜の観察は昼間とは違った楽しいこともあるのですが、一方で特別な注意も必要です。

暗いので、構に落ちたりしないよう、あらかじめ下見して危険な場所を把握し、そういう場所には近づかないよう安全対策を徹底しましょう。できれば、よく知ったフィールドで行うことが望されます。

森の中では蚊に刺されることがありますので、服装は長袖・長ズボンで、蚊取り線香を用意するなど蚊の対策も講じましょう。

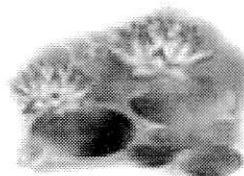
また、よその家の敷地に入りこむようなことは避けなければなりませんし、子供が大勢参加すると、つい騒がしくなります。周囲に民家がある場合は、夜間ですから騒音で迷惑にならないよう気をつけましょう。

こうしたことに注意して、たまには夜の観察を楽しみましょう。

協議会役員紹介のページ

3月21日に開催された平成16年度総会で新役員4名を含む21名の役員が承認され、4月10日の理事会から新体制で運営されています。

尚、各支部の支部長は理事を兼務しますので、今回併せて紹介いたします。



監事：南川 陸夫
知多支部



知多支部の南川です。この度、監事という仕事を仰せつかりました。最近は自然環境も社会から注目され、少しづつ自然が復帰しつつ有るのが肌で感じられます。

私は経験不足と知識不足で有りますが、有りの僕の姿で、有りの僕の状況を観察してまいります。
会の監事の仕事も規約に基づき正々堂々と尽力したいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

監事：脇田 孝仁
名古屋支部



自然環境に対する興味は、強いのですが自分の所属している観察会で満足な活動もせず、何の実績もないのに、役員を頼まれたとき、たまたま気分がよかったのか「ハイ」と返事ををしてしまいました。

後から後悔しているのですが、引き受けた以上責任は果たさねばと思っております。よろしくお願ひします。

普及：井城 雅夫
名古屋支部



普及担当となりました井城です。近年、とりわけ都市部では自然に触れる機会が少なくなり、自然や野生生物に対する正しい認識を持った人が少なくなっているような気がします。

自然に対する知識や自然とのふれあいの経験を今の人気が少しでも持つことができ、少しでも多くの人に自然を知ってもらうことができればと考えております。

名古屋支部長
滝田 久憲



私は昨年から支部長枠の一人として協議会の理事を務めさせて頂いております。

本来、協議会は各支部に所属する会員がその枠を越えて交流したり、活動の情報交換をする場所です。志を同じくする仲間が大勢いるのは心強いものです。それぞれの会員が活躍の場を広げて行けば行く程、協議会の果たす役割は大きいのではと考えています。私もそのお手伝いができればと思っています。

知多支部長
降幡 光宏



たまたま知多支部の代表をさせていただいているので、理事になりました。

できれば、旧規約のように支部長以外の者を選出できるとよかったです。というのは、4月1日から大府市自然体験学習施設「二ツ池セレトナ」に勤務していますので、月曜日が休館日で土・日が勤務となっているからです。会議は代理に出ていただきますが、支部と県協議会との連絡調整をがんばって勤めたいと思っています。

東三河支部長
梶野 保光



新しいみどりの担い手をめざして

東三河支部はNPO法人として、新しい歩みを始めて一年が経過しようとしています。

われわれの行う自然観察会もただ「教える」だけでなく、参加者と身近な自然の様子を学びながら緑の大切さを理解し、自然環境と人間の生活活動との係わり合いを知り、自然観察会を通じて地域の緑を守り育てる「新しいみどりの担い手」の仲間を増やすことを目指して行こうと考えています。

奥三河支部長
今泉 洋良



奥三河支部の代表で、理事の中でも年寄りで、しかも前年も欠席も多く、一番間に合っていない人です。本年もそうなりそうです。

観察会でも特に専門分野があるでもないので、みなさんの後について教えていただいているのが実態です。

この他に西三河支部長の三田 孝さんが理事を務めています。

尾張自然観察会Webページ紹介

山田博一

尾張自然観察会



<http://www006.upp.so-net.ne.jp>

1. Web ページ作成の発端

「我々の活動が、社会のかたすみでなく、価値あるものとして認めてもらうにはどうすればよいのか?」「観察会の状況を多くの人に伝えるにはどうすれば良いか?」と言う気持ちから公開を踏み切りました。これは、文芸や絵画は残るが、観察会は、参加者に一時的に残るだけで、時間の経過とともに貴重なものが忘れ去られる傾向があるからです。

2. 後世への記録として Web ページ

20周年祭で「20年の歩み」を作った時に、記録の必要性が痛感されました。すばらしい活動は2~3年という尺度ではなく、10~50年という長い尺度で残すと、必ず後世の人に役立ちます。これを Web ページの運営と並行してやると、負担が少なく、自動的に、尾張自然観察会の活動記録を、後世に残すことができます。

3. 行政、報道機関や学術分野に情報を提供できる窓としての Web ページ

愛知県の外郭団体「エコスポットあいち」が無断使用していたのが発覚し、ある意味で注目されることがわかりました。また、2万近くのアクセス数と問い合わせから、都道府県、市町村の環境や自然保護関係の課や、大学の生物資源学部・農学部が定期的に見ており、個人だけではなく、行政や学術分野に情報を提供する窓として機能していることがわかりました。報道機関や一般の人に自分たちの観察会を紹介したい時、URLを紹介してください。また Web ページをドラッグアンドコピーで印刷物やメールに使ってください。(尾張自然観察会の会員は、自由にコピーできます)

4. 人気のコンテンツ

まず、ネイチャーキーリングです。「感動的な文章あり」、「素晴らしい写真あり」自然関係者だけでなく福祉関係者の間でも注目的です。

遠く、島根県からも注目されている「生物暦」は、成果は未知数ですが千件近く情報が寄せられデータは蓄積されており、将来が楽しみです。

「田んぼにこんなに生き物がいたの?」と感動される「イネ作り」も負けず劣らずの人気コンテンツです。ほかに、高校生に人気の「オトシブミのスライドショー」など25のコンテンツ一つは素晴らしい写真や文を載せて人気があり、総容量は11MBを超えています。

5. 困ったこと

大容量の写真を送ってこられたこと。協力してくれない人とはトラブルが発生しないのに、熱心に協力してくれる人との摩擦は大変なジレンマです。

6. 意外な利用

尾張自然観察会の通信は郵送されていますが、検索よりすぐに出せるネット上の記録として、行事予定を見たり、定期観察会のバックナンバーを見たりして利用している人が多いです。

7. 原稿の送り方

- ①メールの場合、テキストをお願いします。ワードや一太郎の文で添付する必要はありません。
- ②写真をJPGで送られる場合は、写真の名称は、半角英数をお願いします。全角やひらがなのタイトルをFTPで送るとエラーが発生します。
- ③写真の容量は1枚につき25KBから50KBでお願いします。

どのような写真もWebページ上では、27.5KB以下にしています。理由は、ダイアルアップでもストレスなく閲覧してもらうためです。大きな容量の写真をダウンロードする時のストレスを経験された人は多いと思います。なお、担当者として、添付ファイルは200KB以内で送ってもらいたいと思います。大きな容量を一度に送ってもらうとありがたいのですが、受信の時、大変です。たくさんの写真は、分けて次の日に送ってもらうと助かります。

8. 一人ではできない Web ページ

このWebページは尾張自然観察会で運営されている「自分達一人一人のWebページ」です。私は、尾張自然観察会の指導員が知らせたい情報を発信する「口(くち)」にすぎません。みなさんの御協力で成り立っています。

保全部新設

「協議会ニュース」94号P10理事会報告をごらんいただきましたように、新体制スタートにあたり保全部が新設されました。

協議会として、また自然観察指導員として関わっていくことの責務を、各理事がそれぞれ充分認識をしていたため、保全部新設は即決されました。

中西会長及び保全担当吉川洋行さんを中心に各理事の活躍にみなさんも是非、力添えと応援をお願いします。

◆前号は、紙面に限りがあり保全部新設を充分に伝えることが叶いませんでしたので、今回紹介をしました。

会員の近況

自然観察の里—過去・現在・未来—

奥居達郎さん(西三河支部)



奥居さんがフィールドとする岡崎中央総合公園内「自然観察の里」を記録した冊子をまとめられました。今回協議会に10冊寄贈いただきました。活用についての詳細は、理事会にはかり協議のうえ決定し、協議会ニュースなどにてお知らせいたします。

会費納入について

平成16年度の年会費納入の手続きは

完了しましたか？

「うっかりしていた！」 「忘れていた！」という会員は、さっそく支部を通して手続き願います。本年3月の総会で決定した新たな規約では、原則7月末までの納入とし、納入なき場合は退会とみなす、とうたわれています。ご注意を。

また、会員名簿は8月1日を基準として作成される予定です。その意味でも速やかに手続きください。
◆名簿作成は2年に1度の発行予定です。作成出来次第、「協議会ニュース」最新号と共に送付します。

ML【自然観察】にどうぞ！

～フレッシュ情報満載～



「協議会ニュース」92号p8役員紹介で齋竹善行さんが、メーリングリスト「自然観察」を立ち上げ、みなさん呼びかけられましたが、登録は終えられましたか？目下、登録者は51名。

生物暦を中心に、さまざまな情報交換や話題提供がされています。積極的な活動展開をする会員から、思いがけない情報が入ることもあります。新鮮な情報満載のメーリングリストです。インターネット環境が整っている方は、是非 齋竹さんの下記宛アドレスへ連絡をどうぞ。

メールアドレス：BZA03620@nifty.ne.jp
(又は
BZA03620@nifty.com)

尚、このメーリングリストは協議会の活性化を目的に、齋竹さんが自主的に管理・運営に取り組まれています。

(以上、保全部新設からML[自然観察]の記事担当：事務局近藤)

募集！ 原稿・写真・イラストなど

協議会ニュースでは会員のみなさんの投稿を以下の通り募集します。

- ・「会員のページ」の原稿
- ・「個人のWEBページ紹介」の原稿ともに内容は自然保護・観察記録・紀行文・自然体験など…。
- ・「観察会の報告」の原稿・写真
- ・「観察会のネタ披露」の原稿
- ・「表紙」の写真・イラスト・絵手紙など

本年2004年の表紙は、近藤守さん(西三河支部)が協議会に提供された写真集

「奥三河の四季」から抜粋し、掲載しています。来年2005年1・3・5・7・9・11月発行に見合った季節感あふれる写真・イラスト・絵手紙を投稿ください。尚、表紙は年間掲載分6枚を基本としますが、単月も対応を検討しますので、ご連絡ください。
(連絡先：最終ページ編集部荷川まで)

◆投稿原稿・写真その他作品の掲載につきましては、

研修会予定

講座研修「愛知県の自然の状況－生き物を通して－」

協議会主催

研修	日時	集合場所
「昆虫からみた近年の自然」 (付: 昆虫標本の作り方)	7/4(日) 14:00~16:30	なごやボランティア・NPOセンター 集会室 (伏見ライフラボ 12階・1階は消防署)
「愛知県の植生の特徴と 近年の状況」	9/23(祝) 14:00~16:30	未定 (詳細次回以降連絡)
「動物からみた近年の自然」	11/23(祝) 14:00~16:30	未定 (詳細次回以降連絡)

申込み: 支部でとりまとめ大谷まで連絡を。 問合先 kokokei@nifty.com 0572-23-6907

愛知県主催 フォローアップ研修会
(協議会 研修部 大谷 PR 担当)

- 1 期日: 平成16年9月4日(土) 昼
～9月5日(日) 昼過ぎ
- 2 会場: 春日井市少年自然の家
(参加者は現地集合)
- 3 参加費: 参加費は、当日持参。
NACS-J会員 5,000円
- 4 申し込み方法・問い合わせ先
 - (1) 申し込み方法: 次の必要事項を記入の上、90円切手を貼付した返信用封筒と合わせて下記宛へ送付。
(記載事項: 住所、氏名、生年月日(年齢)、性別、電話番号、職業、指導員番号、(財)日本自然保護協会の会員か非会員の区別)
 - (2) 申し込み・問い合わせ先
県内在住者 〒460-8501 (住所不要)
愛知県環境部自然環境課自然環境G
TEL052-954-6229(ダイヤルイン)
FAX052-963-3526
- 5 申込期間: 平成16年7月1日(水)
～7月30日(金)(予定)
- 6 講師: 中村俊彦(千葉県立中央博物館)
波多善夫(岡山理科大学教授)
- 7 内容: 1日目「植生調査の目的とアプローチ」、「里山の見方・考え方・接し方」野外実技指導有り
2日目 野外実習「植生管理のブランディング実習」等

お詫びと訂正

前回94号のp10の理事会報告内
(誤) 2004/4/13 → (正) 2004/4/10

編集後記

最近の気圧配置を見ていると秋の初めの台風のシーズンを感じさせられます。これの異常気象は地球温暖化の一つでしょうか?

5月、6月の生物の出現を見ていると今年は特に早くなっているような気がします。私の通っている築水池周辺ではゼフィルスの出現がいつもより2週間ほど早いようです。5月29日にはアカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、ウラクロシジミとそろい踏みでした。松尾 初

編集スタッフ

稻生 和久、岩沙 雅代、近藤 記巳子、
齋竹 善行、古川 俊江、荷川 真弓、
松尾 初、横井 邦子、吉田 裕孝

◎みなさまのご意見・ご感想など原稿をお寄せください。

尚、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。あらかじめご了承下さい。

「協議会ニュース」に関する宛先(編集部)
〒445-0863 西尾市葵町44 符川 真弓

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖2-6-17 桜本町 CH101
近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460